

居住地選択における移住者の過去の経験や環境が及ぼす影響 長野市善光寺門前エリアで開業した移住者を対象として

THE INFLUENCE OF MIGRANTS' PAST EXPERIENCES AND ENVIRONMENT ON THEIR CHOICE OF RESIDENCE

A case study of migrants who started their business around Zenkoji-monzen area, nagano

佐倉研究室 20W5045D 鷲田萌乃
Sakura Lab. 20W5045D Moeno WASHIDA

キーワード：移住者、住環境履歴、ライフストーリー

Keywords:
Emigration, Residential history, Life story

In recent years, it is said that the outbreak of COVID-19 has increased interest in emigrating to rural areas. However, some people find it difficult to choose the most suitable one from the vast number of places to emigrate, which makes them give up on emigration. Based on interviews with migrants who opened their businesses in the Zenkoji-monzen district in Nagano City, Nagano Prefecture, this study aims to clarify how their experiences and environment in the past are affected the current choice to migrate and to provide more help to migrants in choosing the best place to migrate.

1. 序

1-1. 背景と目的

近年、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地方移住の興味・関心が高まっている⁽¹⁾。高度経済成長以降、地方から都市部へ人が集中する一極集中が継続しているものの、感染拡大をうけた2020年4月以降、日本人異動者の東京圏への転入超過数は前2年の水準を下回り、7月から9月までは東京圏は転出超過となった。以上のことから、地方への移住に国民の関心が高まっているとともに、東京圏から地方への人の流れがみられることから今後さらに地方移住が加速していくと考えられる⁽²⁾。また、平成29年に「まち・ひと・しごと創生法」¹⁾が制定されて以降、国は全国的に移住してもらうため、補助金やデジタルを活用した仕組みなどを積極的に支援している⁽³⁾。地方自治体においてもSNSでの発信や移住体験住宅²⁾の整備、相談会などさまざまな面から移住に対する支援制度が設けられている。

移住前に地域の全てを把握することは難しいが、事前の情報収集と投資が移住を成功させるとし、長期的に快適な移住生活につながるとされている⁽⁴⁾。しかし、移住先を探すための情報は膨大で多大な時間と労力が必要である。そこで本研究では、移住者の過去の経験や環境に着目することで、どのような経験や環境が居住地選択のどの部分に影響を及ぼすのかを明らかにし、移住希望者が情報収集や移住体験住宅への参加など、時間や労力を必要とする前に居住地を選ぶ一助を増やすことを目的とする。

1-2. 既往研究と本研究の位置づけ

(1) 移住に関する既往研究

移住に関する建築・都市分野の研究では、移住希望者がどの媒体を利用して移住に関する情報を収集しているのかに関する研究⁽⁵⁾や、どのような相談をした人が実際に移住してきたのかに関する研究⁽⁶⁾、移住する際のプロセスに関する研究⁽⁷⁾、地方移住関心層と移住可能層それぞれの地方移住生活のイメージに関する選好パターンの違いに関する研究⁽⁸⁾などがある。これらはどれも移住者が移住を検討してから実際に移住するまでに行動を研究したものであり、移住を検討する前の移住者に関する研究はされていない。他分野の移住

に関する研究をみると、観光学の分野では、観光体験と観光地関与がライフスタイル移住にどのような影響を与えているのかという移住者の過去から見た研究⁽⁹⁾がなされているが、限定的である。

(2) 過去の経験や環境に関する既往研究

過去の経験や環境に関する建築・都市分野の研究では、幼少期の商業地に関する思い出と現在の商業地選好意識の関係に関する古城らの研究⁽¹⁰⁾や、住環境の観点から居住者の価値観と住環境履歴が将来の住環境傾向に及ぼす効果として、刀根ら⁽¹¹⁾が主に自然環境と交通の便の良さに焦点を当てて、研究しているものがあげられる。

(3) 本研究の位置づけ

以上のことから、移住に関する研究において、過去の経験や環境がどのような影響を及ぼしているのか、全体的な研究はなされていない。しかし、商業地選好意識や住環境選好が過去、特に子ども時代に影響しているという研究があることから、移住者が居住地を選択する際においても自身の過去の経験や環境は影響があると考えられる。

1-3. 対象者の選定

調査対象者として長野県長野市善光寺門前エリア³⁾(以下、門前エリア)で開業している移住者とする⁽¹²⁾。ふるさと回帰センターの調査⁽¹³⁾によると、新型コロナウイルスが流行する以前から長野県は移住地希望ランキングの上位に位置していること(表1)、移住を希望する地域類型によると地方都市の人気の今でも高いこと(図1)から長野県長野市とする。また、長野市は長野県内の中では移住し、起業をする人に向けた補助金などの移住支援政策が充実している点⁽¹⁴⁾から開業したい移住者が移住しやすいこと、開業する場合はその地域に長く住む予定があると推測されること、門前エリアは個人店舗が集中していることから対象者として選定した。また、本研究における移住者の定義は、自らの意思で5年以上長野市外に居住し、現在、生活の場である居住地を長野市内としている人とする。

1-4. 研究の方法

本研究では2021年5月～6月にかけてと2021年12月に行った調査時、門前エリア内に自身の店舗も住居も構えている移住者6名と、門前エリア内に自身の店舗を構えるが、門前エリア外に住居を構え

ている移住者6名へヒアリング調査を行った(表2)。B-4のみ、門前エリア内で自身の店舗を構えていたが、建物取り壊しのため現在は自宅で行っている。門前エリアで再度開業する意思があることから調査対象者として含んでいる。質問は半構造形式で、移住者の①基本属性②子ども時代の居住地に対する印象や住居③子ども時代の住居を出てから、長野市に移住するまでの居住地に対する印象や住居④長野市への移住理由と印象や住居、今後も長野市に住み続けたいかの4点を中心に尋ねた。Ep.数とは対象者が先に挙げた①以外の3点に関する語りの数をまとめたもので、隣に内訳を示している。

また、ヒアリング調査を進めていく中で話の流れや聞き方によって、現在の長野市における満足している点などに偏りが出てきている可能性があったため、対象者12名に対し後日、メールにてアンケート調査を実施した。内容はヒアリング調査で得られた長野市に対する印象と市民意識等調査⁽¹⁵⁾をもとに作成した。

表1 ふるさと回帰センター(東京)移住地希望地ランキング (筆者加筆)

順位	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
1位	山梨県	長野県	長野県	長野県	静岡県	和歌山県
2位	長野県	山梨県	静岡県	広島県	山梨県	広島県
3位	静岡県	静岡県	北海道	静岡県	長野県	佐賀県
4位	広島県	広島県	山梨県	北海道	福島県	静岡県
5位	福島県	新潟県	新潟県	山梨県	宮城県	長野県

相談 セミナー

出典)ふるさと回帰センターの現状について(2021年11月)特定利営利活動法人100万人のふるさと回帰・循環運動推進・支援センター

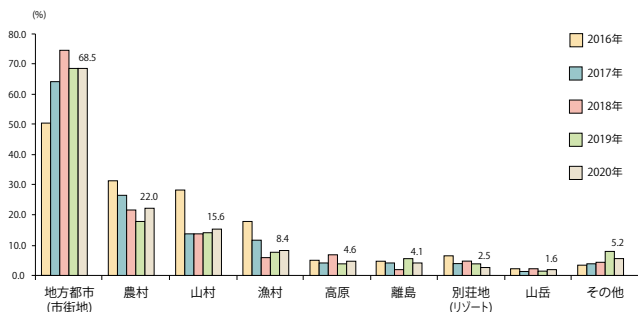


図1 移住を希望する地域類型 (筆者加筆)

出典)ふるさと回帰センターの現状について(2021年11月)特定利営利活動法人100万人のふるさと回帰・循環運動推進・支援センター

表2 ヒアリング対象者の属性

ID	居住エリア	職業	性別	年齢	移住歴	Ep.数	②	③	④	調査時間	
A-1	門前エリア内	飲食店	男	40代	12年	41	17	12	12	70分	
A-2			女	30代	5年	48	21	16	11	105分	
A-3		雑貨用品店	男	30代	5年	58	22	25	11	100分	
A-4			男	30代	6年	55	11	26	18	65分	
A-5		事務所施設	事務所施設	男	50代	32年	34	16	5	13	100分
A-6				女	50代	30年	29	18	2	9	80分
B-1	門前エリア外	飲食店	男	40代	5年	35	13	11	11	100分	
B-2			男	30代	8年	28	9	11	8	55分	
B-3		雑貨用品店	男	30代	8年	35	11	11	13	55分	
B-4			女	30代	5年	72	29	29	14	95分	
B-5		事務所施設	事務所施設	女	40代	11年	33	10	11	12	50分
B-6				女	30代	2年	51	16	15	20	95分

1-5 論文の構成

2章では移住者の子ども時代と現在、3章では今までの居住地と現在、4章では長野市への移住時期と現在について、ヒアリング調査で得られた語りを主として、各章で別の視点から補足の分析を加えるものとし、5章をまとめとした論文構成とする(図2)。

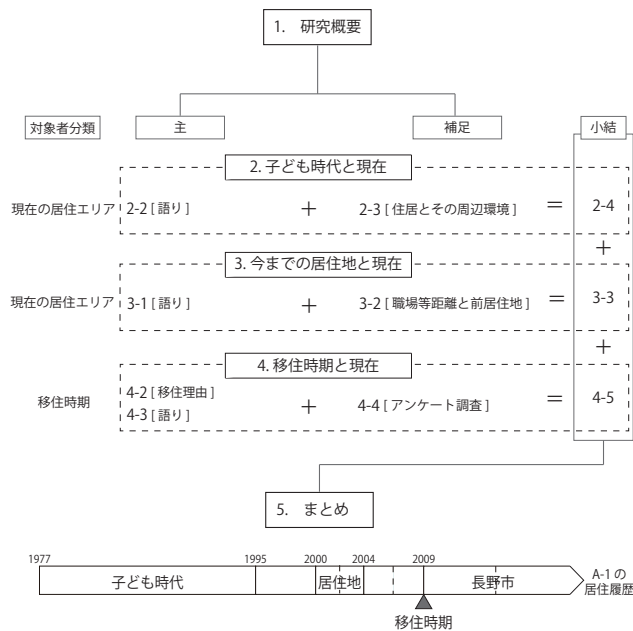


図2 論文構成

2. 子ども時代について

ここでは対象者を現在の住居が門前エリア内外かで分類した上で、子ども時代の経験や環境における影響を語りと住居を用いて現在と比較し、分析していく。それらから、子ども時代のどのような環境や経験が現在の移住地選択に影響を与えているのかを明らかにする。

2-1. 子ども時代の期間設定

ここでの子どもの時代とは、対象者の生まれから高校卒業までの年齢までとする。対象者には、子ども時代と現在の住居の間取りを描いてもらっているが、この場合、子ども時代の住居は小学校中学年以上のものとし、それ以前の住居については描いてもらっていない。

2-2. 子ども時代と現在【語り】

ヒアリング内容から、対象者の語りをオーラル・ヒストリー調査法⁴⁾を参照し、類型化することによって【風景】【文化】【利便性】【地域性】【行事】の5つの構成要素を抽出した。これらを場所、建物、人、もの・ことの4つの軸からなる表上に子ども時代と現在に分けて1人ずつ整理した(図3)。図3はA-6を代表例として示している。

① 風景

子ども時代の風景について、自然の風景と住宅の風景に関する語りが45件中それぞれ20件と最も多かった。このうち子ども時代の自然の風景において、田んぼや畑などの風景が多かったと語っていたものの、それを自然や緑が豊かと語らなかつた人は全員A群で、長野市について自然の風景の語りがなかつた(A-1, A-2, A-3, A-6)。

一方で、子ども時代の風景について、公園、田畑関係なく、自然や緑が豊かと語っていた人は全員B群で、長野市も自然や緑が豊かと

語った(B-3, B-4, B-6)。このことから子ども時代、自身の住環境が自然や緑が豊かだったと思う人は、長野市に関しても自然が豊かと捉える傾向にある。さらに、A群、B群で分かれていることから、門前エリア内では普段、自然の風景がみられることが少ないのではないかと考えられる。また、子ども時代の風景について、自然が少なかったと語ったB-2は、長野市も自然が少ないと語った。

② 文化

子ども時代の文化については、遊びに関する語りが53件中47件で最も多かった。このうち、子ども時代に寺社仏閣で遊んだ経験についての語りがあった人(A-2, A-5, A-6, B-6)は、A-6を除いて現在において善光寺についての語りがあり、それは自身の日常の語りとして語ることが多い傾向にあった。一方で子ども時代に寺社仏閣で遊んだ語りはなかったものの、善光寺についての語りがあった人(A-1, A-4, B-3, B-4)は、A-1を除いてお店の移住理由や観光の点から語っていた。このことから、子ども時代からお寺や神社が日常にあった人にとって、お寺や神社が近くにあることは自然的で日常的にありたいと考える傾向があるといえ、A群の方が多い傾向にあった。

また、商業施設で遊んだ経験についての語りが多かったA-3は、現在について、雨の日に遊べる場所がほとんどないと語っていた。子ども時代を複数地域で過ごしたB-4は、一方の地域では商業施設の遊びに関する語りが多かったが、もう一方の地域については語られなかった。B-4は、子ども時代に遊べる施設の地域差があったため、長野市に対して商業施設が少ないという語りがなかったのではないかと考えられる。このことから、子ども時代に商業施設で遊んだ経験がある人にとって、長野市は遊べる商業施設が少ないと考えられる。

③ 利便性

子ども時代の利便性については、商業施設に関する語りが50件中17件で最も多かったが、これは、子ども時代の遊びに関する商業施設が多く含まれていた。次に、交通のアクセスに関する語りが15件で2番目に多かった。このうち、子ども時代から都心へのアクセスが良い地域に住んでいる人ほど、長野市の東京へのアクセスの良さについて語っている傾向がある(A-3, A-4, B-4, B-5)。これは、子ども時代の住居が関東方面であることが理由として考えられる(A-3, A-4, B-4)。B-5に関しては、職業が宿泊業のため、観光客のアクセスの良さを重視した移住理由としてあげられたと考えられる。このことから、関東出身者が長野市を選ぶ理由として、都心へのアクセスの良さが重要であると考えられる。しかし、電車の本数が少ないことや都心に比べて公共機関の発達が劣るものの、それについての語りはA-4のみであった。

また、現在の語りにおいて、歩いて物事が完結できる、住むのに困らないといった、住みやすさについての語りがA群B群に限らず多く挙げられた。このことから、関東出身者は都心へのアクセスは重視するものの、日常での交通の良さは徒歩で完結できるのであれば十分と考えている傾向にある。また、実際移住してきた人たちは、出身地関係なく十分満足している傾向にあると考えられる。

④ 地域性

子ども時代の地域性については、人との繋がりに関する語りが24件中12件で最も多かった。このうち、子ども時代から人との繋がりを多く語っていた人(A-6, B-4, B-6)は、長野市に移住した際も人との繋がりを強く求めている傾向にある。A-6は人との繋がりを昔のよう

で慣れ親しんだ感じと語っている。B-4やB-6の場合は、もっと繋がりたい、仲良くなりたいたいと語っていることから、物足りない部分があると考えられる。これらの違いは居住エリアにあると考えられ、A-6は門前エリア内なのに対し、B-4, B-6は門前エリア外に居住している。一方で、B-5のように子ども時代に人との繋がりが少なかった人からすると、門前エリア外はプライベートに踏み込まれすぎずちょうど良いと感じている。このことから、人との繋がりを強く求めたい人は門前エリア内、ある程度の距離を保ちたい場合は門前エリア外に居住することでより自身にとっての住みやすさが得られるのではないかと考えられる。ただし、A-6の薄くしようと思えば薄くできのかもしれないという語りができるように、地域のコミュニティへの関わり方は自身で調節しやすい地域性があるとも考えられる。

⑤ 行事

子ども時代の行事については、お祭りに関する語りが22件中11件で最も多かった。このうち、子ども時代から全国的にも有名なお祭りが身近に開かれていたA-5は、長野市は今でもいいけど街の規模としてももう少し大きくなっていいと語っている。また、B-1は子ども時代に地域全体で観光客も巻き込んだようなイベントが数多く行われていて活気があったという語りから、対象者の中で唯一長野市のイベントに対する活気が少ないと語ったと考えられる。このことから、子ども時代の行事体験は、活気や規模感といった街の賑やかさの価値観に影響を及ぼしており、A群B群関係なく賑やかな街にいた人は、長野市に対して物足りないと感じる傾向にあると考えられる。

2-3.子ども時代と現在 [住宅とその周辺環境]

以上の結果から、子ども時代の経験や環境が現在の移住地選択に影響を与えていることが明らかになった。これは住居やその周辺環境といったより狭い範囲の住居にまつわる部分についても影響を与えているのではないかと考えられる。そこで、対象者に子ども時代と現在の住居の間取りを描いてもらい、そこから読み取れるものと実際にヒアリングで得た住居に関する語りから、以下にまとめた(図4)。これは、対象者が実際に描いた間取りとヒアリングで構成されており、例えば、和室がないと語ったため和室がないのではなく、描かなかった、あるいはヒアリング時に話に出てこなかったため、ないとしている。そのため、ここの分類に入っていないからそのものがなかったとはいえず、対象者が間取りを描いてください、という設問に対して、意識していなかった、印象に残っていなかったので描かなかった、語らなかったと捉えることができる。

① 門前エリア内居住者 (A群)

現在の住居について、A群は賃貸しかいなかった。その1人であるA-5は、本当は購入したかったが売ってくれないと回答している。また、A群の方がリノベーションしている家が多く(A-2, A-5, A-6, B-1)、そのうちA-5, A-6がセルフリノベーションも行ってた。このことから、賃貸を改修したい人にとっては最適なエリアだが、購入して改修したい人には難しいエリアだと考えられる。

現在、店舗付き住宅として門前エリア内に居住している人(A-2, A-6)は、子ども時代に親が自営業などで店舗付き住宅として過ごしていた。このことから、子ども時代から職住近接で過ごしていた人たちは職場と住居が同じなことに抵抗が少ない傾向にあると考えられる。

② 門前エリア外居住者 (B群)

現在の住居について、B群で物件を購入している人(B-1, B-3, B-4)

千代時代 (Ep.18/29) 長野県安曇野市	場所 交通のアクセス 駅と駅の間だから駅の起点と言うと番栄でないところ。 いゆる国道とか県道とかに接してないと言うか、旧道からちょっと細い道に上がったところであって、別にバスとかわかるわけじゃないけど	建物 野間気 街っていう認識はないよね。完全な田舎から町と村っていうのはすごい違った。印象としては。	人 人自体 割と都会って言うか町の子と割と接しやすいところの村って感じ。小学校が1、2つとかしかないから、そういう文化差が生まれちゃうと言うか、小学校はいついばあれはね、村だけの子になるかもしれないけど、小学校は2個しかないからそう言うっちゃう。中学校は一個。	もの・こと 文化 (Ep.3/18) 遊び ちよつと小高い所に祠みたいなのがあって、木の木とかなんかが生えて、でも家が建ってない状態、そこにレンゲとかが生えていて、なんかそこで近所の子とお花摘んだりとか、何かわかんないけど遊んでたなあ まだこの家のすぐ下が空き地だったところ。区画だけはされて、でも家が建ってない状態、そこにレンゲとかが生えていて、なんかそこで近所の子とお花摘んだりとか、何かわかんないけど遊んでたなあ 雑草のこの林があつて、それからちよつとあかしの木出してるとか、そでサワガニとつたりとか、わらびとつたりとか。
	自然の風景 木が少ない。だからここに木とか植えたい。そしてらもつと涼しくなるから。	自然の風景 本場に田んぼのあぜ道を歩いて帰るみたいな状況のところ ちよつと平地なんだよね。川も流れてて大きい川が、犀川がね、流れてる。	自然の風景 ただ一軒一軒の敷地も田舎は大きいので、こういう街みみたいな状況じゃなくて結構広くて、近所もいちいち隣人だぞと歩くと言うか	自然の風景 本場に長野で県庁所在地で人口も多いのに、なんておとなしいんだらうって言うか 面白かった全部。っていう人間もやっぱりすごく私の中では興味深くて、ころ自分がやっぱり生きてきたものとか見てきたものその文脈に全然なし。全然ないから、いちいち新鮮。
現在 (Ep.9/29) 長野市 西之門町	自然の風景 木が少ない。だからここに木とか植えたい。そしてらもつと涼しくなるから。	自然の風景 本場に田んぼのあぜ道を歩いて帰るみたいな状況のところ ちよつと平地なんだよね。川も流れてて大きい川が、犀川がね、流れてる。	自然の風景 ただ一軒一軒の敷地も田舎は大きいので、こういう街みみたいな状況じゃなくて結構広くて、近所もいちいち隣人だぞと歩くと言うか	文化 (Ep.3/18) イベント その近所の仲良かった隣組の3、4軒で春になると、花見をやるとか。なんか月に一回とか2ヶ月に1回はなんだかんたんで集まってる。 ラムっていうマロンって言うか、それがあの地域の焼肉とかお花見とか集まりの必ず出てくるものっていう感じ。そういうのやってたなあ。

図3 子ども時代と長野市についての語り代表例(A-6)

幼少期		A-1	A-2	A-3-1	A-3-2	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4-1	B-4-2	B-5	B-6
住居形態	住居														
人数構成	兄弟	妹	姉	妹2	妹2	姉	弟2	弟2	姉	姉	兄弟	弟	弟	兄2	姉2
間取り	間取り類型	ホール型 4LD+K	田の字型 2LDK	2LD+K	3LD+K	3LDK	町家	中廊下型 4LDK	中廊下型 4LDK	中廊下型 3LDK	5LDK	中廊下型 3LDK	居間中心型 4LD+K	居間中心型 5LDK	居間中心型 5LD+K
各室	自室	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	和室	○	○						○	○	○	○	○	○	○
	仕事部屋/店舗		○				△	○							
	外庭				○										
	中庭						○								
外構	ベランダ		○								○				
	ピロティ			○											
	土間				○		○								
	サンルーム												○		
住居周辺	川									○				○	
家具	仏壇		○				○	○							○
現在		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6		
住居形態	住居														
人数構成	大人	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
子供	2			1		2	1	3	2	1	2	1			
間取り	間取り類型	ホール型 2LDK	5LDK	2LDK	1LDK	3DK	町家 4LDK	居間中心型 3LDK	中廊下型 5LDK	中廊下型 3LDK	中廊下型 3LDK	中廊下型 3D+K	2LDK		
各室	和室	○													
	仕事部屋/店舗		○				○					○		○	
	外庭						○		○						○
	中庭														
	ベランダ										○				
外構	ピロティ														
	土間		○			○	○								
	サンルーム														
	川										○				○
住居周辺	田んぼ/空き地										○				○
家具	仏壇														

図4 子ども時代と長野市における住居とその周辺環境

凡例		戸建て平屋
		2階建て住宅
		アパート
		マンション
		町家
		新築
		改修・改築
		店舗併用住宅
		社宅・寮
		シェアハウス
		賃貸物件・公営住宅

のうち、子ども時代の住居が古家である B-1 は空き家を購入してリノベーションしており、子ども時代の住居が新築である B-3, B-4 は現在においても新築物件を購入している。このことから、住居形態において子ども時代の影響を受けていると考えられる。

現在、川の近くに住んでいると回答した人 (B-3, B-6) は、子ども時代も住居の近くに川があったと答え、現在、庭付きの物件に住んでいると回答した人 (A-5, B-1, B-6) は B 群に多く、子ども時代も住居に庭があったと答えた。このことから、外構や住居周辺環境については子ども時代から持続して選ぶ傾向があると考えられる。また、B 群の方が子ども時代と住居周辺環境が似たような場所を選ぶ傾向があったことについては、門前エリア外の方が外構や住居周辺環境に関する選択肢が多いからではないかと考えられる。

2-4. 小結

以上より、どのような子ども時代を過ごしたかで門前エリア内外どちらの方がどういう点で住みやすいと感じるのか、構成要素ごとの傾向が明らかになった。また、子ども時代の比較的広範囲な住環境だけではなく、より狭い範囲である住居形態やその周辺環境においても現在の住居を選ぶ際に影響を及ぼしている傾向があることが明らかになった。住居形態については職住近接の点において A 群、新築・改築の点において B 群と、両者ともに影響を及ぼしていると考えられるが、住居周辺環境については B 群の方がより強く影響を及ぼしている結果となった。

3. 今までの居住地について

ここでも 2 章同様に対象者を現在の居住エリアが門前エリア内外かで分類した上で、子ども時代の住居を出てから現在に至るまでの居住地 (以下、前居住地) での経験や環境における移住地選択の影響について、語りを用いて現在と比較し、分析していく。それらから、

どのような環境や経験が現在の移住地選択に影響を与えているのかを明らかにしていく。

3-1. 今までの居住地と現在 [語り]

対象者の生まれから現在に至るまでの主な居住地を示した図を示す (図 5)。これと、2-3 同様に前居住地に関する語りを構成要素に分け、4 つの軸をもとに作成した 1 人ずつの図 (図 6) と比較しながら分析していく。図 6 は A-4 を代表例として示す。

① 風景

前居住地の風景については、自然の風景に関する語りが 33 件中 19 件で最も多かったが、特に共通点などは見当たらなかった。このことから、前居住地に関しての環境や経験は風景よりも、その他の文化や利便性、地域性に対する影響が多いのではないかと考えられる。

② 文化

前居住地の文化については、遊びに関する語りが 24 件中 11 件で最も多かった。このうち、お店に関する語りをしていた人 (A-2, A-4, B-4, B-5, B-6) は、門前エリア内外に居住しているにかかわらず、長野市において個人のお店がたくさんある良さについて語っている傾向がある。このことから、前居住地でカフェなどの個人店の多い地域で過ごしてきた人にとって、商業施設やチェーン店ではなく、個人店が多いことが魅力的と感じる傾向があると考えられる。また B-5 のように、そういった地域で今まで過ごしてきたからこそ、カフェなどの文化的な店がない地域では住めないと考える人もいるため、ある程度の文化的側面を求める人にとって長野市は最適な移住地域であると考えられる。

③ 利便性

前居住地の利便性については、交通のアクセスに関する語りが 45 件中 22 件で最も多かった。このうち、オーストラリアのトラムの利便性の語りがあった A-4 は、長野市の交通 IC が未発達なことや電車

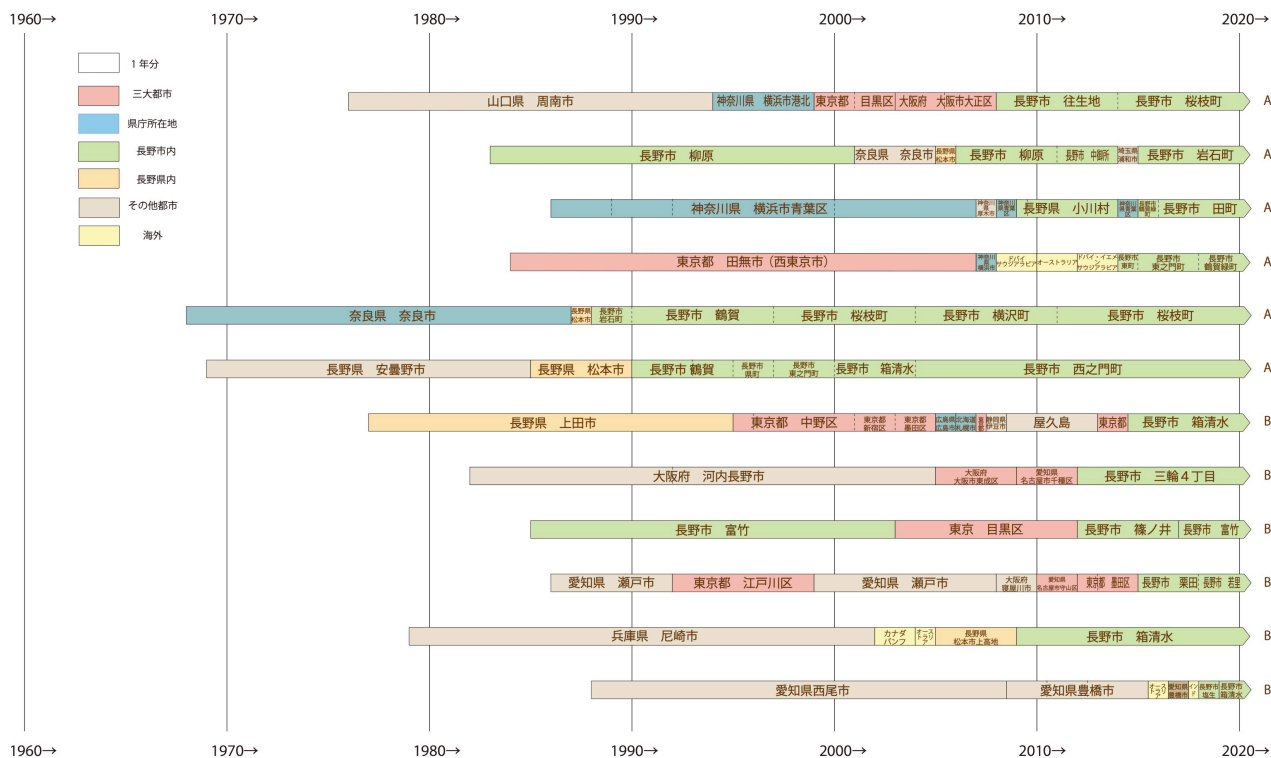


図 5 対象者の居住歴

	場所	建物	人	もの・こと	
黒：神奈川県横浜市 赤：ドバイ、サウジアラビア 緑：オーストラリア 青：イエメン 居住地域 (Ep.26/55)	風景 (Ep.3/26) 自然の風景 横浜はみなとみらいって言うの近くですね、横浜市っていうよりは。いろんなものがすぐそこにある場所でした。海もあるし、東京では海はなかったけど、横浜は海が見えた。 住宅の風景 あと家がやっぱりでかいですね。軒一軒がでかくて土地が広いからっていうのもあるけど、すごいでかくてやっぱり一人の部屋もでかいし。 シェアハウスとかもたくさんあって、一人で住むっていうよりは、みんなで住んでって感じてました。シェアハウスも面白いんですよね。	地域性 (Ep.8/26) 人自体 地域の人っていうより、いろんな人が集まる。結構稼げに来てる人がほとんどですかね。それこそ移民も多かったですね。面白いですね。 日本人が多かったですね。そういうところはワーホリの人が多い、多分、語学留学がね。 体もでかいですけれどね。肥満率本当アメリカを確かとしたんじゃないんですかね。肥満の人めっちゃ多いですね。 すごい個人を尊重する国で、仕事下次で家族とか、自分のことをすごい大事にする国民性が、すごい日本と違ってて、例えば残業とか一切ないしすごいいい国でしたね。 治安 最後の1年とかはイエメンに行ってすごい治安が悪い。 すごいセキュリティの頑丈なホテルに住んで、もちろんお休みの日とかでもそこから出られないというか、出られにくいからずっとホテルにいましたね。	文化 (Ep.10/26) 歴史 東京とは何か違った感じがしました。ヨーロッパではないですけどちょっと異国感があるようなとレンガ館とかもそうですけど。 イタリアの文化が残っているっていうおしゃれな街でした 中東の後だったっていうのもあるかもしれないけど、すごい自由	遊び メルボルンはヨーロッパの移民がたくさんいるんでカフェとか飲食店がたくさんある。 飲食店行って日本人の1.5から2人前くらいだから、誰か行ってシェアみたいな。	宗教 やっぱ食事文化も全然違うし、イスラム教なので宗教感が全然違いました。特に女性なんて虐げられてるみたいなの、本当に運転とかも出来なかったりで。 ラマダンっていう期間があって日が出てるうちは誰も食べ物食べられないっていう意識しないので外で食べたり飲んだりしてると殺されたりするみたいで怖い。 1日6回くらいお祈りの時間あって、朝4時とか5時とかに町内放送みたいな感じで音楽が流れてきて、その音楽と共にみんな起きて、モスクに行くみたいな。一言に起こされる、それがつらかった
	利便性 (Ep.5/26) 交通のアクセス あとトラム、メルボルンはトラムが走って路面電車ですかね。それがすごい印象的でしたね。 住みやすさ コンパクトシティとまではいわないですけど交通網は行き届いてるので、電車も、バスも、トラムも使えば基本どこでも行ける街でした。 お店 買い物はホテル、飯も食うから何も買わないですね。	利便性 (Ep.6/18) 交通アクセス あとコンパクトの町って言うのも決め手ですかね。駅からでも行けるし、善光寺も近い。(移住理由) 電車の本数がめっちゃくちゃ少ない。松本とか車だとちょっと遠いから電車で行きたいなっていう気持ちはあるけど、本数が少ないから、一本乗り遅れたら1時間後とか。 お店 個人のお店が多いチェーン店が少ないのは僕にはいいな。色々個性があってカフェとか飲食店とかあいたいと思う。	物価 やっぱビジネス的な観点から見ると家賃が安かったり (移住理由)	人自体 やっぱ人が少ないっていうのもある。これくらいがちょうどいい。東京はちょっと多すぎて、学生時代から結構多いのは多いなあと思ってた。 もうちょっと若い人欲しい。30代ないし、20代もないし、もうちょっと下に降りていけばね、いるけど (店舗)	日常 電子マネーが普及してない。せめてパスモ、スイカくらいは使えて欲しい。
文化 (Ep.2/18) 歴史 街の感じもよかったです。もともとインバウンド外国人がメインの宿をやりたいて思っていて、そうなるってやっぱこういう古風じゃないですけど、歴史のある街でやっただけでお客さん来るんじゃないかなって思ってた (移住理由)	地域性 (Ep.7/18) 天候 冬寒いなって、こんな寒いなって。1年目2年目とか寒すぎて帰ろうかと思ってました。 産業 観光客が多い所で年間通してあんまり波がない。(移住理由)	人との繋がり ご近所付き合いが多いっていうのはある、みんな優しいです。神輿以外に煙で採れた野菜とか果物とか持ってきてくれたりとか。(店舗)	イベント 飲食店とかみんなこのへんやってるんで、そのお店で飲み会とか行ったりしてます (店舗)	町内会 町内会に入って大掃除とか、後は忘年会は年に一回あって、それは参加してませんがね。そんなに嫌だなあとかはないですね。(店舗)	
長野市 鶴賀緑町 現在 (Ep.18/55)					

図6 前居住地と長野市についての語り代表例(A-4)

本数の少なさとといった、公共交通の不便さについて語っている。このことから、前居住地において当たり前になっていた交通の便の良さは移住先においても求めたいと考える傾向にあると考えられる。

④ 地域性

前居住地の地域性については、人自体に関する語りが62件中20件で最も多く、次に人との繋がりが16件と人に関するものが多かった。このうち、東京に居住したことがある人(A-1, A-2, A-4, B-1, B-3, B-4)は、門前エリア内外に居住しているにかかわらず、B-4以外の人が通勤や通学による東京の人の多さについて、ネガティブな語りをしていた。このことから、長野市に移住する人の多くは、都心の人の多さに対して、妥協できない人が多いのではないかと考えられる。

また、A-3は前居住地の語りで人との繋がりが多かったが、長野市の方ではあまり語られなかった。B-4, B-6は子ども時代の語りに続いて前居住地の語りで人との繋がりを多く語っていたことから、前居住地でも人との繋がりを重視しており、長野市においても重視し続けている傾向にあると考えられる。両者の違いとして、B-4, B-6は子ども時代からの妥協できない部分が人との繋がりであり、A-3の方は人との繋がりは自身の中でそこまで重要視されていないのではないかと考えられる。また子ども時代と同じく、A-3は門前エリア内に住居を構えていることから、門前エリア内では門前エリア外よりも人との繋がりが強く現れる傾向にあると考えられる。

⑤ 行事

前居住地の行事については、イベントに関する語りが9件中6件で最も多かった。このうち、地域性で前居住地の人とのつながりを多く語っていた、A-3, B-4, B-6は行事に関しても同様に語りがみられ、A-3は地域性と同じく、長野市に関して行事の語りがなかったことから、地域性に関する考察と同じことが言えると考えられる。

3-2. 今までの居住地と現在[職場等距離と前居住地]

前居住地での語りの共通点による移住地選択はみられたが、居住エリアにおける影響は④地域性以外ではあまりみられなかった。そこで、ここでは住居から善光寺、長野駅、職場の距離関係と前居住地を照らして分析していく。

対象者の住居(地区の中心)から善光寺、長野駅、自身の店舗までの距離を示す(図7)。さらに、対象者の生まれから現在に至るまでの主な居住地を示した図と比較しながら分析する(図5)。図7にあるように、門前エリア内に居住しているA群はA-4を除いて職場が一番近く、門前エリア外に住んでいるB群はB-4を除いて善光寺が一

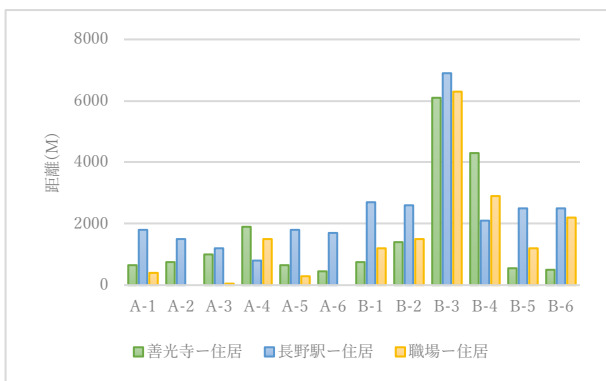


図7 現在の住居と職場等との距離

番近かった。ただし、A群の方も善光寺までの距離は1000m以下と比較的近い。このことから、門前エリア内外に関わらず善光寺の周辺に住居を構えたいと思う人が多いことが考えられる。

A-4とB-4はどちらも住居から長野駅が最も近く、交通アクセスを重要視する傾向にあると考えられる。前居住地と照らし合わせると、子ども時代の居住地がどちらも東京であることから、交通の便が良い地域に住んでいたため、交通アクセスを重視する傾向があるのではないかと考えられる。また、長野市に移住する直前が東京である、B-1, B-3, B-4はともに門前エリア外に住居を構えている。これは、門前エリア内は職場の地域であると考え、ある程度離れていたいと考える傾向があると考えられる。

3-3. 小結

以上より、前居住地での文化的活動や、人の量、繋がりといった経験が現在の移住地選択に影響を及ぼしていることが明らかになった。居住エリアにおける差異はあまり見られなかったことから、前居住地については、街全体に関するより大きな部分での影響の方が大きいと言える。また、移住直前の地域によって居住エリアが分かれたことから、現在の居住地については、特に移住直前の居住地による影響があると考えられる。

4. 移住時期について

今までの章より、移住者の過去の経験や環境が現在の移住地選択に影響を及ぼしていることは明らかになった。さらに、各々の過去の経験や環境だけではなく、過去の社会的背景も影響を受けながら移住していると考えられる。この章では、対象者を移住が注目された時期別によって分類した上で、移住理由や現在についての語りとアンケート調査を用いて分析し、移住が注目された時期によって移住地選択にどのような影響を与えているのかを明らかにする。

4-1. 移住ブームのポイント設定

上村氏によると、これまでに都市から地方への移住が注目されたのは2008年9月に起きた世界的金融危機の「リーマンショック」、2011年3月に発生した「東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故」、2014年の「地方創生」の3つの時期であると示されている⁽¹⁶⁾。ふるさと回帰センターの相談件数を見てもその時期を境にしながらかつて徐々に相談件数が拡大している(図8)。このことから、対象者が長野市に移住してきた時期について3つの社会的背景と2020年以降のコロナ期で分類する。



図8 ふるさと回帰センターの相談件数(筆者加筆)

出典) ふるさと回帰センターの現状について(2021年11月)特定利営利活動法人100万人のふるさと回帰・循環運動推進・支援センター

表3 対象者の移住理由

	場所	建物	人	もの・こと	
以前	A-5		長野はそうでもなかったというか、活発に動いてなかった気がしてなんか街としてはないもなし分、自分でやってみようと思ったというか、1から自分でやってみようというか。		
	A-6	自身の運営拠点があったから、学生時代から拠点を離れようと思わなかった。たぶん他の人は、つてか就職してとかだったんだと思うんだけど、拠点を離れようって考えが全く湧かばなかった。			
リーマンショック期	A-1	長野市にきたきっかけは奥さんの実家でお店をやりたいなっていうところで、お店は来た時にすぐここでやるって決めた。	長野市は松本の夏ほどではないけど一年通してずっと安定的に来るといえるのがあって、小さい宿をやるにあたっては安定的な方がいいのかなっていう。数字の面で言うとやっぱり当時ゲストハウスっていうのは海外の人がよく使っていた場所だったので東京から山本まで2時間2時間半とかかかるんだけど、長野市なら90分で来れるっていうアクセスの利点。プラスこっちで人の繋がりが出来てきたっていうのもあったり。	その時同時多発的にいくつか中心市街地でこの場所を借りて自分たちで直して踏み出す人たちがポツポツと現れていたのと、空き家見学会というのが始まった時期。	
	B-5				
大震災期	B-2	コストが安い、家賃が安いというので一回失敗できるっていうのがあったから選んだ。家賃が安いというので一回失敗できるっていうのがあった。		長野市にしようと思った理由ではなくて、色んなところを見て選んだわけじゃなくて長野市の方が良かったっていうのがあって、小さい宿をやるにあたっては安定的な方がいいのかなっていう。数字の面で言うとやっぱり当時ゲストハウスっていうのは海外の人がよく使っていた場所だったので東京から山本まで2時間2時間半とかかかるんだけど、長野市なら90分で来れるっていうアクセスの利点。プラスこっちで人の繋がりが出来てきたっていうのもあったり。	長野市にしようと思った理由ではなくて、色んなところを見て選んだわけじゃなくて長野市の方が良かったっていうのがあって、小さい宿をやるにあたっては安定的な方がいいのかなっていう。数字の面で言うとやっぱり当時ゲストハウスっていうのは海外の人がよく使っていた場所だったので東京から山本まで2時間2時間半とかかかるんだけど、長野市なら90分で来れるっていうアクセスの利点。プラスこっちで人の繋がりが出来てきたっていうのもあったり。
	B-3	長野市を盛り上げたい。	やっぱりノベーション物件がいいかなと思って、なのでそういうのを探しているうちに門前のエリアノベーション栄えてることが分かって。駅前よりも安く。普光寺も近い。	一人でやっているとわけじゃなくて長野駅前にあるイタリア料理店があってそこでその友人に声をかけられてじゃあ一緒にやらなかってことでその立ち上げた時にプランを立ち上げた。	
地方創生期	A-4	あと実家が東京なんです東京からのアクセスが良く。街の感じもありましたね、やっぱり僕もともとインバウンド外国人がメインの宿をやりたいと思っていて、そうなるってやっぱりこういう古風じゃないですけど、歴史のある街でやった方がお客さん来るんじゃないかなって思っていました。あとコンパクトの町って言うのも決め手ですかね。	ビジネス的な観点から見ると家賃が安かった。駅からも行けるし、普光寺も近い。	観光客が多いので年間通してあんまり波がない。めっちゃ来る月もなければめっちゃ少ない月もないっていうのがあって。	
	A-2	こういう風景があるところがいいなっていうのが街並みを見て思ってた。小雑居を見て凄然と思ってた。	なんか愛着ですよね、深さがやっぱり違うなっていうのと、高校の時に思ってた、いずれはその長野のまちづくりに関わる、長野でできることをしたいっていう。やっぱり普光寺じゃないですかね。お店をそこでやれたかったわけは歩いていける、気軽に歩いて行ける。	色々し始めて、今空き家見学会とかやってんだみたいな感じでしたたいてい遅いのでそろそろまあこの開業に至るみたいな感じ。	
	A-3	何も不便がない。実家がほどよく遊べる場所があったから、いつでも帰れるみたいな。バスで帰れたってのもあって。1500円くらいで帰れるから新宿まで、1500円とかで。めっちゃ安くってしょっちゅう帰ってた。東京だと新幹線でもバスでもあるから便利だった。	あと長野市にあまり親の事をちゃんとやっていると、周りに敵がない。	なんか長野市に移住して、3年以内だったら移住者起業支援金っていうの100万円使ってるっていうのもあって、それ使ってやっとならば100万円ぶんのももらえるなんて思ってた。	
	B-1			商売のことで長野市を選んだって感じ。商売の成功する近道と言うか。人数がたかさんいるっていう。	東京で講演会を聞きに行くと、空き家見学会っていうのをやってるから、そうやって色んな地域から長野に住みたい人が集まってそう言う、古民家再生して住んでるとか、お店をやる人とか、いろんな方がいらっしゃるんですけど、っていう話を聞いて、それ面白いと思ってる。
B-4	どこか東京じゃない、愛知じゃない、岐阜でもない、住みやすく、子育ても、なんかあつたかい地域がいいなとは思って、ふわつとした想像しながら、長野っていいじゃんって思ってた。だから場所を決めなかったけど知ってるなみたいなところ何も知らないところではないとは思っていた。私、その縁があんまりないところに住みたくないうつと思ってた。				
コロナ期	B-6	門前はもう最初から門前って決めてこの辺の文化が好き。普光寺周りが好きだったからっていう。	私が来た理由は事業の立ち上げ。	知り合いのシェアハウス繋がりで仲良くなった人、その辺のお友達があの辺に住んでるからっていうことかな。	

B-6	場所	建物	人	もの・こと
現在 (Ep.20/51)	<p>長野市箱清水</p> <p>風景 (Ep.2/20)</p> <p>自然の風景 山が近い、なのでどこにいるときと同じくらい山を感じられる感じ。</p> <p>商業的風景 街灯があったり、イルミネーションがあったり、桜が綺麗に咲くとかそういうところも良かった。</p> <p>治安 駅や雑居で飲んで夜に帰っても怪しい道じゃない、危険がなさそう。</p> <p>雰囲気 本当に今住んでるところとか長野の雰囲気が好きで安心してる。</p> <p>店終わるとか急に街が静かになる。</p> <p>文化 (Ep.3/20)</p> <p>歴史 やっぱりあの辺の道って中央通りでも普光寺裏の私の家の裏の周りでしょって文化を保とうと綺麗にしてあるところがいい。</p> <p>宿坊とか街並み、寺とか宿坊とかあの辺を遊学路みたいに歩くのが最高だと思ってる。なんか観光地に住んでる憧れみたいな。</p> <p>門前はもう最初から門前って決めてこの辺の文化が好き。普光寺周りが好きだったから。</p>	<p>利便性 (Ep.6/20)</p> <p>お店 好みのお店屋さんとかそういう好みのお客さんとかが集まっている街なら安心して暮らせそう。</p> <p>もうちょっと日曜日の朝のモーニングできるカフェが欲しい。</p> <p>ちよいちよいあるお店がいい雰囲気。</p> <p>お店が古民家改修しましたみたいなお店が私の好みの雰囲気であんまりキラキラしてない感じのところ。</p>	<p>地域性 (Ep.8/20)</p> <p>人自体 保育園の子供が街を散歩して、公園で遊ぶ声や散歩中のおばちゃんとかしゃべっている姿が嬉しい。</p> <p>繋がりで仲良くなった人、お友達があつたっていうことかな。</p> <p>事業主さんたちともっと仲良くなりたいので、そういう機会があるといい。</p>	<p>人との繋がり よく気がかけてくれるおばあちゃん、話しかけてくれる。</p> <p>今住んでみるところはおばあちゃんおじいちゃんがいって、帰ってきたらおかえりって言ってくれる。しちよつと臨作業やっていると何やってるのって言われて来てくれる。</p> <p>行事 (Ep.1/20)</p> <p>お祭り 横沢町のお祭りめちゃくちゃ面白くてみなさんすごく一生懸命でその後めちゃくちゃお酒飲んで何が一番なのさすごい絆ができたみたいな、地域ぐるみの祭りで。</p>

図9 長野市についての語り代表(B-6)

4-2.移住時期と移住理由[語り]

対象者を長野市に移住した時期で分類したため、移住理由に最も影響が現れていると考えられることから、対象者全体をポイント別に並べ替え、それぞれの移住理由について分析していく(表3)。

① ブーム以前期(A-5, A-6)

移住理由として何もない街に自分で何かしたいと思ったからという理由が主に挙げられた。

② リーマンショック期(A-1, B-5)

A-1は移住理由として、配偶者の実家でお店をやろうと思ったという街に対しての移住理由ではないため、少し特殊な例であった。B-5は、移住理由として観光客や人の多さなどが主に挙げられた。このことから、B-5に関しては、事業を長く続けるための人を重視した経済面の移住であると考えられる。

③ 東日本大震災期(B-2, B-3)

移住理由として家賃が安いからが主に挙げられた。長野市にした理由は特にないけど失敗してもいいくらいのコストだったため、とりあえず移住したと語ったB-2、実家の近くだからという理由が強いB-3からみると、事業をその土地で長続きさせたいというよりも自身のライフスタイルにあった場所として移住先を重視しているのではないかと考えられる。B-2は今後長野市に住む予定はなく、長野市移住後に見つけた長野県内のさらに地方へ行きたいと語っている。

④ 地方創生期(A-2, A-3, A-4, B-1, B-4)

移住理由として観光客や人の多さなどがリーマンショック期と同じく主に挙げられた。一方、同時期でも人の多さを理由として挙げなかった人(A-2, A-3)は、今後、長野市から出ていく予定があると語っていた。このことから経済面が強い時期に移住してきた人で、長く長野市に住み続ける予定の人の移住理由は商売を成功させる術、特に人の量を重視して移住先を選んでいることがわかる。

⑤ コロナ期(B-6)

移住理由として知り合いが近くに住んでいたり、場所の雰囲気が気に入っているからと語っていたことから、ライフスタイルを重視した傾向がある。

4-3.移住時期と現在[語り]

4-2において、ポイント別の移住理由に傾向があることが明らかに

表4 アンケート調査内容

大分類	質問項目
場所	a. 公共交通機関の利用しやすさ(普段利用のしやすさ)
	b. 高速交通網の利用のしやすさ(新幹線、高速道路など都心への出やすさ)
	c. 子育て環境
	d. 歴史的街並みなどの門前周辺の景観
	e. 歴史や伝統が受け継がれていること
	f. 自然の豊かさ
	g. 天候(寒さ、暑さなど)
建築物	h. 快適な住環境(静かさ、立地条件など)
	i. 物件の多さや選択肢の多さ
	j. 家賃など家周りのお金
	k. レジャー/商業施設の充実さ
人	l. 人の多さ
	m. 近隣同士の距離感(挨拶や付き合いなど)
	n. 移住者に対する寛容さ
	o. 移住者同士の付き合い
	p. 日常の買い物
もの・こと	q. 日常の物価
	r. 地域コミュニティール(回覧板など)
	s. まち全体の活気(地域住民の街づくりが活発など)
	t. 新たなことを始める環境として
	u. その他門前周辺で満足している点
	v. その他門前周辺で不満足な点
記述式	w. 全体として長野市門前周辺に対して満足しているか
	x. これからも長野市に住み続けたいか

なったことから、2章、3章同様にここでもポイント別による移住地選択への影響があるのではないかと考えられる。そこで、今まで同様、現在の語りを4つに分類した図(図9)をもとに分析していく。図9はB-6を代表例として示している。

① 風景

現在の風景については、どの風景に関しても語りの量に差はなかった。このうち、ブーム以前期のA-5, A-6は、長野市に対して木が少ないと語っていた。自然ではなく木が少ないと語っていることから、普段の生活の中で自然に触れ合う機会が長野市は少ないと考えているのではないかと考えられる。また、両者とも門前エリア内に住んでいることから、お店や施設が建っていて周りの山々が見えにくいという点も考えられる。

② 文化

現在の文化については、歴史に関する語りが19件中13件で最も多かった。このうち、歴史的な街並みについて語ったのが、A-4, B-6、善光寺について語っていたのはA-1, A-2, A-5と各時期とも長野市の歴史的街並みや文化に触れた発言をしていて、特に差異は見られなかったが、A-1, A-2, A-5, B-6は、自身の日常に触れた歴史的な話だったのに対し、A-4は事業開業の理由の一つとしてあげていた。

③ 利便性

現在の利便性については、住みやすさに関する語りが53件中20件で最も多かった。これについて、A-2, B-6以外は長野市に対して、コンパクトな街であったり、田舎と都会の間であったり、住むのに困らないと語っている。具体的には場所や建物といった、街の機能に対しての語りであったが、B-5に関してのみ、人に対して田舎と都会の間でプライバシーが保たれていると語っていた。

④ 地域性

現在の地域性については、人自体、人との繋がりに関する語りが52件中42件と半数以上を占めていた。東日本大震災期のB-2, B-3は人の語りが他と比べて少なく、場所や建物の語りの方が多かった。このことから、人より場所や建物といった観点を考えて移住している傾向があると考えられる。

コロナ期のB-6は人との語りが多いことから、人を重視した観点で移住していると考えられる。

表5 対象者のアンケート調査結果

社会的背景	ID	場所							建築物					人					もの・こと				
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t		
ブーム以前	A-5	4	4	4	4	4	4	3	4	3	3	2	3	4	4	4	4	3	3	4	4		
	A-6	4	4	4	3	3	3	3	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	3	3	4		
リーマン ショック期	A-1	4	4	5	4	4	5	2	4	4	5	3	3	4	4	4	5	4	2	5	5		
	B-5	4	5	5	4	4	5	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5			
東日本 大震災期	B-2	4	4	5	5	5	4	4	5	4	4	4	4	4	5	4	5	4	4	5	5		
	B-3	4	3	3	5	5	4	4	3	3	4	3	3	3	4	3	4	4	3	4	4		
地方創生期	A-4	4	4	5	4	4	3	4	3	4	3	5	5	5	4	4	4	4	5	4	5		
	A-2	5	5	4	4	4	2	4	4	5	4	4	4	4	4	4	5	5	4	3	5		
	A-3	2	5	2	5	3	4	4	4	2	3	1	4	4	3	3	4	3	3	3	5		
	B-1	4	4	4	4	5	5	3	5	3	4	3	4	4	3	3	4	2	3	4	3		
コロナ期	B-4	5	5	4	3	4	5	5	4	2	4	4	2	2	3	2	4	3	2	4	4		
	B-6	4	4	5	5	5	5	5	4	4	5	5	5	5	4	4	3	5	4	4			

⑤ 行事

現在の行事については、お祭りに関する語りが10件中5件で最も多かった。長野市の行事について語っていたのは、A-1, A-2, A-4, B-1, B-2, B-4, B-6と比較的どの時期に移住した人でも言及しており、時期別の特徴は得られなかった。

4-4.移住時期と現在[アンケート調査]

4-3での語りの分析において、④の地域性を除き、あまりポイント別の特徴がみられなかった。これは、移住者が語った内容のみを扱っているため、話の流れによる偏りが生じ、語らなかった部分に関する内容が分からないことが要因として挙げられる。そこで、ここでは対象者に後日行ったアンケート調査をもとにポイント別の移住地選択の傾向がないかを分析していく。

4-4-1.アンケート調査概要

アンケート調査では、質問20項目について場所、建物、人、もの・ことの4分類に分け、満足している(5)、やや満足している(4)、普通(3)、やや不満である(2)、不満である(1)、の五段階評価で回答してもらった(表4)。以下がアンケート調査の結果でポイント別に分類して示している(表5)。

4-4-2.アンケート調査結果と分析

① ブーム以前期(A-5, A-6)

両者とも全体的にまあ満足、普通と回答しており、どの質問に対しても非常に満足という回答が得られなかった。これは、自身が街をもっと良くしようという思いから移住している移住理由に影響があると考えられ、まだまだ街に対してできることがあると考えているのではないかと考えられる。

② リーマンショック期(A-1, B-5)

他の時期の人に比べ、家賃など家周りのお金(i)や日常のお金(p, q)に関して高評価の回答をしている傾向がある。このことから、経済的な側面を重視し、満足していると考えられる。

③ 東日本大震災期(B-2, B-3)

両者とも場所についての質問が高評価の回答であった。特に街の歴史に関しての質問(c, d)に対して両方とも大変満足と答えたのは、東日本大震災期とコロナ期の人のみであることから、ライフスタイルを重視した社会的背景を持つ時期の移住者にとって、長野市の街の歴史的部分は満足を得やすい地域性があると考えられる。

④ 地方創生期(A-2, A-3, A-4, B-1, B-4)

人数も最も多いというもあるが、同じ地方創生期の中でもばらつきが多いことから、最も不満が出やすい時期であると考えられる。このことから移住して5年程度経つと、その地域が自身にとってどの点が住みやすいか分かるのではないかと考えられる。

場所、建築に関しての質問にやや不満、不満と答えている人(A-2, A-3)は今後長野市から出ていく予定があると回答していたのに対し、人に関しての質問にやや不満と答えた人(B-4)は今後も長野市に住み続けたいと答えている。このことから、場所や建築といった街のハード的側面で不満を持つと他の地域に行く傾向があるのに対し、人やもの・ことといったソフト的な面での不満は妥協できる、もしくは改善する余地があると考えられる。

⑤ コロナ期(B-6)

全体的に高評価の回答であったが、これは移住して年数が経っていないことが要因として考えられる。また、同じライフスタイルを重

視した社会的背景を持つ東日本大震災期に移住した人に比べ、人に関する質問が高評価の回答であった。このことからコロナ期に移住してきた人は、ライフスタイルで人を重視していると受け取れる。

4-5.小結

以上から、同じ開業するために移住してきたとしてもポイント別に移住理由の傾向があることが明らかになった。ブーム以前期に移住してきた人は何もない街に自身で何かしたいと思っている傾向、リーマンショック期、地方創生期に移住してきた人は商売の経済面を重視する傾向、東日本大震災期、コロナ期に移住してきた人は自身のライフスタイルを重視する傾向があることが明らかになった。ただし、同じライフスタイルを重視したような移住期であっても、場所や建物を重視するのか、人を重視するのかで背景が異なっていた。

また、ライフスタイルを重視した社会的背景を持つ時期に移住してきた人や、経済面を重視した社会的背景を持つ時期に移住してきた人たちの中でも商売のことを第一に考えて移住していなければ、長野市から別の地域へ移住を検討する傾向がある。

さらに、ポイント別の移住地選択においても移住理由と関係したポイント別の傾向があることが明らかになった。

5. まとめ

本研究では長野県長野市善光寺門前エリアで開業した移住者を対象に移住者自身の過去の経験や環境が移住地選択にどのような影響を及ぼしているのか、移住者へのヒアリングとアンケートによって分析・考察して、以下の知見を得た。

(1) どのような子ども時代を過ごしたかで門前エリア内外どちらの方がどういう点で住みやすいと感じるのか、大まかな傾向が明らかになった。また、より狭い範囲である、子ども時代の住居やその周辺環境でも影響を及ぼしていると考えられる。

(2) 前居住地での文化的活動や、人の量、繋がりといった経験が現在の移住地選択に影響を及ぼしていることが明らかになった一方で、居住エリアに関しては語りにおいてあまり特徴はみられなかった。しかし、移住直前の地域によって居住エリアが分かれるなど、現在の居住地には、特に移住直前の居住地による影響があると考えられる。

(3) ライフスタイルを重視した社会的背景を持つ時期に移住した人はライフスタイルを重視した移住理由が大きく、経済面を重視した社会的背景を持つ時期に移住した人は、商売に関しての移住理由が大きいことが明らかになった。対象者の移住理由において移住時期別による傾向があったことから、移住する時期においても一定の影響を及ぼしていることが明らかになった。

今回は主にヒアリング調査を通して、過去の経験や環境が移住に関してどのような影響を及ぼしているか、全体を把握しながら明らかにした。今後の展望として、これが長野県長野市善光寺門前周辺エリアで開業した移住者だけに関するものなのか、他都市でも調査をすることや、大規模なアンケート調査等で過去の経験や環境に関する定量的なデータを得ることで、より信頼性を増す必要がある。

[補注]

- 1) 人口急減・超高齢化という課題に対し、国を挙げて各地域がそれぞれの特徴を生かした自律的で持続的な社会を創生することを目的とする
- 2) 地方への移住を希望する人が数日や1ヶ月単位などで地域の暮らしを

体験でき、生活の準備ができるよう、短期間の滞在が可能な施設のことで、他にもお試し住宅や田舎暮らし体験住宅と呼ばれる。

3) 参考文献 (12) より引用すると、長野市中心市街地の一部であり、JR 長野駅から 2km ほど北に位置する善光寺の門前周辺、約 1km 四方に広がるエリアを指しているが、明確な境界を持たない、概念的な領域である。本研究では、長野市による、長野市中心市街地活性化プラン（平成 29 年 10 月）に示された、中心市街地エリアを長野市善光寺門前エリアとして対象としている

4) ヒアリング調査の編集方法としては、後藤晴彦、佐久間康富、田口太郎：まちづくりオーラル・ヒストリー、水曜社、pp. 60-67, 2005 を参照した。

[参考文献]

(1) 内閣府政策統括官（経済社会システム担当）：第 4 回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査，2021. 11

(2) 総務省：「地方への人の流れの創出」に向けた効果的移住定住推進施策事例集，2021. 3

(3) 内閣府：まち・ひと・しごと早世基本方針 2021，2021. 6

(4) Glocal Mission Times (<https://www.glocaltimes.jp/9134>)，2021. 6

(5) 包薩日娜，服部俊宏：首都圏在住の移住希望者の移住情報収集行動，農村計画学会誌，第 36 巻，pp209-216，2017

(6) 桑野将司：移住相談内容を用いた居住地選択行動の要因分析，都市計画論文集，Vol. 54，No. 3，pp848-855，2019

(7) 小山晴也，大月敏雄：長野県原村別荘地地区への移住プロセスにおける段階的な拠点形成に関する研究，日本建築学会技術報告集，第 27 巻，第 66 号，pp812-817，2021

(8) 佐藤遼，城所哲夫，瀬田史彦：地方への移住関心層と移住可能層との間での地方移住生活イメージに対する選好パターンの違い-移住先地域での暮らし方・働き方の質に関するイメージに着目して-，都市計画論文集，Vol. 49，No. 3，pp945-950，2014

(9) 小原満春：観光経験と観光地関与がライフスタイル移住意図へ及ぼす影響，日本観光研究学会機関誌，Vol. 32，No. 1，pp33-46，2020

(10) 吉城秀治，辰巳浩，堤香代子：幼少期における都心および郊外型 SC での思い出と商業地選好意識との関係，日本都市計画学会都市計画論文集，Vol. 51，No. 3，pp380-386，2016

(11) 刀根令子，浅見康司：居住者の価値観と住環境履歴が将来の住環境選好傾向に及ぼす効果，日本建築学会計画系論文集，第 616 号，pp23-30，2007

(12) 武者忠彦，倉石智典：エリアリノベーションと都市政策の現代的課題-長野市善光寺門前エリアの事例-，都市再生共同研究，Vol. 72，pp. 63-79，2021. 6

(13) 特定非営利活動法人 100 万人の故郷回帰・循環運動推進・支援センター：ふるさと怪奇支援センターの現状について，2021. 11

(14) 長野市移住定住情報，長野市移住者起業支援金について (<https://www.city.nagano.nagano.jp/site/iju/145241.html>)，2019. 7

(15) 企画制作部人口増推進課：移民意識等調査結果，長野県長野市，H29. 1

(16) 上村真仁：コロナ禍による農村地域作りへの影響-都市農村交流と移住定住の視点から-，日本建築学会農村都市計画部門，研究懇談会資料，pp27-31，2021